

2026年度事業計画



2026年6月
東京都中央区築地3丁目11番6号
(一財) 日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)
事務局長 藤岡 良一

① 2025年度事業方針

本会は、わが国におけるモーターサイクルスポーツを統轄し代表する団体として、モーターサイクルスポーツの普及振興を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与する目的を達成するため、本年度は以下の基本方針に基づき事業を推進する

周辺・社会環境	・デジタル化による魅力創造と環境に取り組む社会活動、エンターテインメント性向上で、スーパーフォーミュラとスーパー耐久はブランド価値向上に成功 ・エモい魅力や楽しさを発信し、ファンを獲得するスポーツチームや選手が増加 ・フジテレビ問題をはじめ、組織にはガバナンスとコンプライアンスを強く求められている ・事故の減少や安全対策の強化が求められている ・若手選手の育成ならびに女性参加者や競技役員の新規獲得とスキルアップを求める声が高まっている
社内環境	・2030年に向けた中期計画方針を立てる時期 ・会計システム更新から2年が経過、予実とスケジュールに対する認知が進み、計画立てた予実管理が出来る環境が整いつつある ・支部解体から5年が経過、支部を基準にした委員会や制度を見直す時期 ・職員の世代交代が着実に進むものの、急激な交代であるため、あるべき形の運用や対応が判らず模索が続いている

重点目標

- 1. 連携強化と人材育成：**外部企業、団体、個人との連携を強化し、若手育成と新たなファン・競技役員の新規獲得を目指します
- 2. 安全教育の強化** **1：**競技エリアと装備品の安全向上を図りつつ、安全講習会と安全啓発により重篤な事故を防止する
- 3. 将来を見据えた基盤整備：**中期ビジョンとガバナンスコードを再構築し、モーターサイクルスポーツの魅力と価値を示す指針を策定します

具体的な取り組み	連携強化	企業や地域団体との連携を深め、イベント開催やスポンサー獲得を目指します。スクール開催団体や施設と連携し、若手ライダーの新たな育成プログラムを開発します。
	人材育成	女性にフォーカスした若手ライダーの発掘・育成プログラムを充実させます。競技役員の新規募集告知や研修会を実施します。
	ファン獲得	体験型イベントや初心者向けプログラムを開催し、モーターサイクルスポーツの魅力を発信します。SNSを活用した情報発信やファン交流イベントを実施します。レース観戦チケットの割引や特典付き会員制度を導入します。
	将来ビジョン策定	2030年以降を見据えた中期ビジョンを策定し、長期的な目標や戦略を明確にします。
	ガバナンスコード再構築	組織運営の透明性・公正性を確保するためのガバナンスコードを再構築します。法令遵守やリスク管理体制を強化します。

本年度の重要施策

- 1. 若手育成とファン層拡大**
- 2. 持続可能な運営体制の構築**
- 3. 魅力的なコンテンツの提供**
- 4. 社会との連携強化**
- 5. 安全教育/環境対策**

②-1 2025年度事業結果

3

取り組み方針	振り返り
若手育成とファン層拡大	2025年度は、全国で親子バイク教室を展開し、とくにイオンモールでの初開催を実現した。あわせて、全日本MX選手権の開催会場において年間3回の親子バイク教室を実施し、若年層への参加導線を強化した。これらの実施にあたっては、イオンモール、ツインサーキット茂原、そして全日本モトクロス主催者との連携を図り、会場提供・安全運営などの面で協力を得ることで、家族層・ビギナー層の参加機会を拡大した。 なお、若年者育成を目的としたスクール開催は未着手である一方、女性育成では、アジア国別対抗戦の代表選抜（公募＋面接）を実施し、2大会へ2名を派遣した。また、女性選手スクールを支援し、若手女性選手の成長を促進した。
魅力的なコンテンツの提供	観戦体験の向上とシリーズの魅力発信を目的に、MX・TRの現場環境把握および全日本RD・MXのデジタル発信強化に取り組んだ。全日本MXでは観客アンケートを実施し、トイレや水場不足など会場インフラの課題を定量的に把握した一方、TRはアンケート未着手でデータ収集に至らなかった。 デジタル面では、全日本RDではWEB・SNSでの発信を継続したもののSNS流入は約4%、滞在時間も短く動員向上に結びつかず。全日本MXも検索依存・スマホ中心で速報偏重、SNS経由の拡がりが限定的なもので終わった。
社会との連携強化	2025年度は、自治体・教育機関との協働を深め、小学校でのトライアル・デモを年2回へ拡大。“夢に向かって頑張る姿”や挑戦の価値を伝える教育的取組として位置づけ、子どもたちの意欲喚起と地域との関係強化につなげた。さらに、バイクツーリズムの経済効果を検証するため「ツーリング部会」を立ち上げ、経済産業省とも連携して検討を開始。競技に限定しないモーターサイクルの社会的価値（観光・地域経済・地方創生）を可視化する基盤づくりを進めた。 顕彰・受賞では、関係機関との連携により顕彰者を1名から3名へ拡大できた点が前進。一方で、官庁・自治体への表敬訪問は減少し、行政連携の継続性に課題が残った。

②-2 2025年度事業結果

取組み方針	振り返り
安全教育・環境対策	2024年の事故を踏まえ、全日本RD選手権へ参加する選手全員を対象に 受講を義務付けた安全講習会（セーフティワークショップ）を初めて実施し、安全教育を強化した。さらに、SNSについては不適切利用の防止にとどまらず、選手やチームの価値向上につながる効果的な発信手法を学ぶSNS教育を開催し、情報発信リテラシーの向上を図った。 環境面では、JSBクラスにおいてCN燃料の評価を進め、3年間で21,181ℓ、2025年度単年度で7,293ℓ 相当のCO2排出ガソリンを削減していることを明らかにした。加えて、JSBクラスが環境にやさしい取り組みを進めていることを伝えるPRポスターをシリーズで制作し、各メーカー・チームと連動し各大会で周知を強化した。
人材育成 （競技役員・普及人材）	競技役員の確保と育成に向け、オフィシャルアンケートを実施し、540名から回答を得て現状と課題の可視化を進めた。一方で、外部協働の拡大や大会運営体制の整理は十分に進まず、人材面の受け皿づくりは着手段階にとどまった。実施できた施策は、鈴鹿8耐でのオフィシャル活動紹介（見学・理解促進）と、全日本モトクロスの大会プログラムへの広告掲載（募集・認知）。 役員ライセンス数は、システム変更の影響はあったものの対前年比102%となった。アンケート結果の深掘り分析を行い、更なる更なる上積みを図ることが次年度の重要課題である。
中期ビジョン・ ガバナンスコード	2025年度に掲げた「中期ビジョンの策定」および「ガバナンスコード再構築」は、体制整備や役割分担の明確化が十分に進まず、準備段階で計画が停滞したことから、年度内にまとめることは出来なかった。特に、関連部署間の調整、必要な資料収集、外部有識者との協働体制など、基盤となるプロセスの整備が不十分であったことが主な要因である。

③ 2026年度事業方針

5

周辺・社会環境

- **政府方針**：スポーツが「地域経済の中核政策」へ格上げされ、スポーツを活用した観光・産業・地域活性化が各地で加速している
- **部活動の地域移行**：全国で進展し、地域スポーツ人材の確保・育成が急務となっている
- **4輪領域の動向**：eモータースポーツが「正規ピラミッド」へ組み込まれ、デジタルとリアルをつなぐ新たな導線が形成されつつある
- **異分野連携**：観光・教育・防災等との横断的協働が投資対象化し、政策的にも推進されている
- **カーボンニュートラル（CN）**：義務的水準へ移行し、持続可能な競技運営が国際基準として求められている
- **人手不足**：構造化が進み、あらゆる運営において“省人化・再設計”が前提となっている
- **FIM ASIA再編**：アジアコンチネンタルユニオンの座組が変化し、迅速かつ的確な国際対応が不可避となっている。
- **防災×モビリティ**：災害時の機動力として二輪車への注目が高まっている。

社内環境と課題

- **中期計画・ガバナンスコード**：策定作業が継続し、統治基準と中期方針の明確化が求められている
- **組織改編**：2月に組織変更を行い、スポーツ部を「競技運営部」「スポーツ振興部」へ分割し、新体制での運用が本格化している
- **定着状況**：新組織の文化・役割の定着に時間を要し、運用ルールの明確化と共有が課題となっている
- **会員システム**：トラブル解消により安定稼働へ移行し、運用標準・マニュアル整備が次段階となっている
- **WEBエントリー**：本格稼働には未達だが、対応競技会の拡大により段階的な運用移行が進んでいる
- **人材状況**：経験の浅い担当者が増加し、フォロー体制と育成プロセスの強化が急務となっている
- **国際業務**：担当移行と案件増加が並行し、対応できる人材が不足しており、体制強化が求められている
- **業務フロー**：新会員システム導入後も事務局運用が過渡期にあり、標準化と定着の遅れが課題となっている。

事業方針

国際動向を踏まえた「**競技運営の基盤強化**」と「**社会との接点拡大**」、そして「**モーターサイクル文化の多面的価値創出**」を統合的に推進し、4輪連携を含む幅広い協働を通じて、持続可能な発展モデルへの転換を図る。

- ① 競技運営の再設計（省人化・標準化・安定稼働）
- ② 会員・WEBエントリーの最適化と段階的な本格稼働
- ③ FIM ASIA再編への整合と国際業務人材の育成
- ④ ×自治体×ツーリング部会（ツーリズム・防災連携の接点）
- ⑤ 環境：CN前提の運営ガイドライン整備と試行
- ⑥ 統治：中期計画・ガバナンスコードの年内骨子確定

事業方針

国際動向を踏まえた「**競技運営の基盤強化**」と「**社会との接点拡大**」、そして「**モーターサイクル文化の多面的価値創出**」を統合的に推進し、4輪連携を含む幅広い協働を通じて、持続可能な発展モデルへの転換を図る。

解 説

モーターサイクルスポーツの国内運営は、専門スタッフの確保難や人材の高齢化、地域差の拡大といった構造的課題に直面しています。大会を安定して開催し続けるためには、従来の人的依存を見直し、**省人化・標準化・安定稼働**を軸とした運営モデルへの転換が不可欠です。MFJは、共通オペレーションの整備、デジタル化の推進、人材育成の体系化を通じて、どの地域・どの規模でも同等の品質で運営できる**基盤強化**を進めます。

一方で、FIM を中心とした国際基準は年々高度化しており、国内とのギャップは大きいのが現状です。これらの基準は国内でそのまま適用できるものばかりではありませんが、**“目標レベル（方向性）”として参照し、国際的な安全性・公平性の考え方に近づくための国内基準の高度化**を図ります。

また、FIM ASIAは 会長交代により方針の変動が大きく、先行きが見えにくい状況にあります。**外部環境としてその動向を継続的にウォッチし、必要な場面で連携する**ことが重要になります。無理に歩調を合わせるのではなく、国内の競技環境を守りつつ、アジア地域と適切な関係を築くという視点で取り組みます。

モーターサイクルの価値は競技だけではありません。ツーリング／ツーリズムによる**地域活性**、トライアルデモ／表敬訪問を通じた**教育機関との協働による人材育成、自治体との連携**、そして **4輪モータースポーツとの協業**による安全基準、運営ノウハウそしてプロモーションの共有 など、**社会との接点は拡大**し続けています。MFJはこれらの領域で、**主体的に連携を深め、価値創出**を進めていき、社会接点と文化価値を一体で拡大し 期待されるモデルを構築していきます。

④ 2026競技会の取り組み

月	日	国際大会	EWC	ロードレース	MX	TR	SUPER MOTO	SC = 全日本スノークロス ED = 全日本エンデューロ	SGT	SF	S耐久	その他
2	15							SN ①② 土別大会				
	22							SN ③④ 美瑛大会				
3	8		2026カレンダー					SN ⑤⑥ 青森大会	岡山T			
	15				①いなべ(1DAY IAのみ)				富士T			
	22					①美浜					もてぎ	
	29	F1日本GP		PRE-TEST ZERO (24-26) 2day								F1GP鈴鹿
4	5			全日本 もてぎ2&4						もてぎ		
	12					①キョウセイ			岡山			
	19		ルマン	事前 SUGO	②HSR(1DAY)	②茂原					suzuka	
	26			全日本 SUGO						AP		
5	3								FUJI			
	10						①御所 2DAYS					
	17	Trial WCもてぎ				TR GP motegi	③名阪					ニール24
	24			事前 オートポリス	③O F V					suzuka		
	31			全日本 オートポリス		②もてぎ					FUJI24	
6	7		スパ・フランコルシャン		④SUGO							
	14			アジアRDもてぎ		④HSR九州						ルマン24
	21			全日本 筑波		③わっさむ			セパン			
	28				⑤弘楽園							
7	5	EWC鈴鹿	鈴鹿サーキット	鈴鹿8 h			②ブラザゲ下 2DAYS			sugo		
	12				⑥新千歳(1DAY)	④えびの市						
	19					⑤神戸			富士			
	26	Formula E								AP		FE
8	2								富士			
	9									SUGO		
	16											
	23								suzuka			
	30			全日本 もてぎ								
9	6								AP TEST			
	13				⑦名阪	⑤灰塚ダム						SUZUKA1000
	20		ボルドール	事前 岡山		⑤灰塚ダム (予備)	⑥名阪	③日高2DAYS(日-月)	SUGO			
	27	Trial DN ITALY		全日本 岡山		TDN						WEC 富士
10	4	MotoGP もてぎ		MOTOGP 日本	MXoN		⑦HSR九州					
	11				⑧OFV	⑥SUGO				富士		
	18								AP			
	25			全日本 MFJGP鈴鹿		⑦湯浅		④チーズナッツパーク 2DAYS				
11	1				⑨MXGP SUGO						岡山	
	8				全国大会 (HSR)				もてぎ			
	15	ラリージャパン				GC岡山 原瀬山	④美浜					
	22				全国大会 (OFV) 日程未定					suzuka		
	29										富士	

【全日本選手権】

種目	変化点
ロード	- スポーツランドSUGO大会が、1ヶ月前倒しとなり4月開催に変更 - オートポリス大会が、従来の9月開催から5月開催に変更
モトクロス	- 三重県いなべ市いなべモータースポーツランドが、3月初開催 - 北海道千歳大会が復活し、全9大会
トライアル	宮崎県えびの市矢岳高原トライアルコースが7月第4戦として開催
エンデューロ	熊本県御所オートランド5月開催。広島テージャスランチ非開催。
スーパーモト	- 猛暑対応のため、8月・9月前半は非開催 - HSR九州が、6月と10月の年2回開催
スノークロス	3会場すべてで2Dayの2大会制として、6大会開催

【地方選手権】

- 【モトクロス】
中部と近畿の選手権は、**中日本選手権**として統一選手権として開催
- 【エンデューロ】
中日本エリアから 中日本選手権とは別に**新しく『オーランドパークエンデューロ選手権』**が誕生 **全4大会開催**

